



● 目次

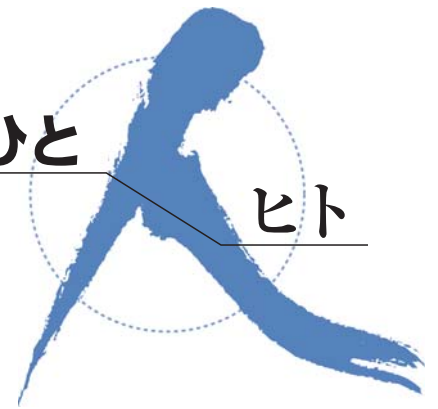
- 2 ひととヒト
- 3 特集 ケーブルテレビができるまで
- 8 能登ふるさと博
- 10 一般会計6月補正予算のあらまし
- 11 第2次求人募集
- 12 とくあばうと/市長談話室/
ななこちゃんのエコ生活
- 13 今月の市民相談/ケーブルテレビ番組
紹介
- 14 情報ランド
- 20 まちの顔
- 22 伸ばせ!七尾っ子プロジェクト/
児童館へ行くこう
- 23 イベント情報
- 24 休日医療情報/不用品活用銀行
- 25 みんなの本棚
- 26 七尾港まつり/わが家のアイドル

今月の表紙

中島高校普通科演劇コース最後の卒業公演が6月19日・20日の両日、能登演劇堂で行われた。平成7年に演劇を普通科の選択科目として導入して以来、一貫してきたのは「プロの演劇人の育成」ではなく、「学校教育として演劇」。公演終了後、仲間とともに抱き合い、ロビーでは恩師や過去の卒業生たちとともに称えあう。その姿は「演劇教育」がしっかりと花開いたことを物語っていた。演劇DNAは東雲高校演劇科へと受け継がれる。

(※20ページに関連記事)

ひと ヒト



七尾市青年団協議会



この日集まった中心メンバーの3人。中央が会長の大崎さん。

若い力で、七尾を
盛り上げたい!

各町会などの小さな単位で青年団(青年会)が祭り事や郷土芸能などを担い、その力を発揮していることは少なくない。それでも、かつて公民館(小・中学校区)単位で組織された青年団の連合組織ともいえる青年団協議会としての活動をみると、価値観の多様化などの影響もあり、全国的にも活動が衰退している。そんな中で全市的な青年団活動が七尾で再び息を吹き返そうとしている。

平成20年の七尾市成人式が成人式大賞を受賞し日本一に輝いたことは記憶に新しい。当時実行委員長だった大崎誠也さん(21)が、現在七尾市青年団協議会会長を務め、市内を中心に7月5日から開催される「石川県青年大会」の運営のために仲間とともに作業に追われている。そしてこの大会を今後の青年団協議会活動のきっかけとし、成人式で感じた七尾への想いを、今度は青年団活動で表現しようという狙いも

ある。「よきこいや太鼓など、特定の目的でがんばっている元気な若者は多いけど、個々の活動をつなぐ組織がない。そんな組織ができれば、きつと大きな力になる」と大崎さんは話す。

また、地元の青年団活動を通じて、「仕事中やプライベートでも地域の方から声をかけられることが多くなり、同世代との横のつながりはもちろん、異世代との縦のつながりを知ることができた」と自分たちの活動が地域の活性化につながっていることを実感している。

今後は「まずは公民館単位で団員募集のための話し合いの場を持ちたい。そして集まった仲間と一緒に、七尾のまちを盛り上げるイベントをぜひ開催したい」と力強く話す。

青年団活動が衰退している今の時代だからこそ、その活動が果たす役割は大きい。これからの七尾市青年団協議会の活動に注目したい。

特集

ケーブルテレビが
できるまで



今日の主演は あなた。

4月から市内全域で見ることができるようになった
ケーブルテレビななお。

今まで知らなかった、そして

知りえなかった七尾がそこにはあります。

主演はあなた。

今月は、ケーブルテレビななおの自主放送番組
「ニコニコちゃんねる」の番組づくりに迫ります。

